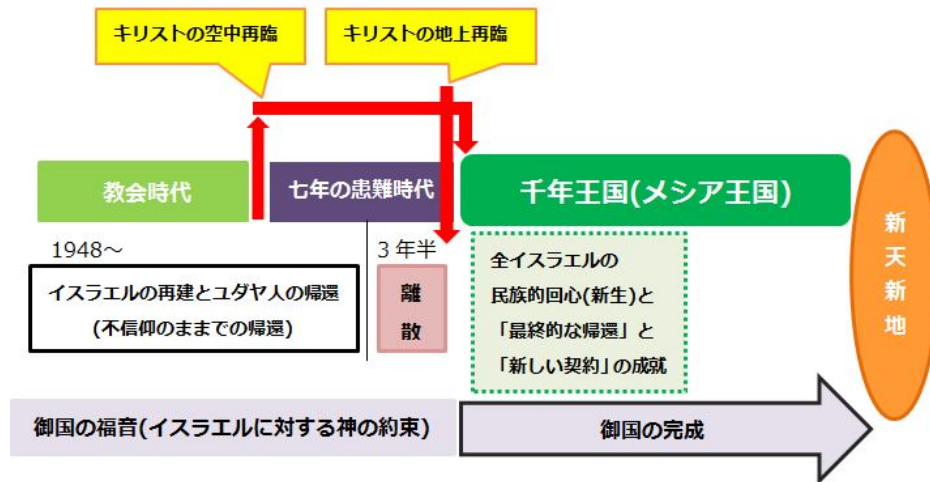


## 千年王国の祝福(その二)

—全イスラエルの最終的帰還と「新しい契約」の成就—



### ベレーシート

●前回は、千年王国(メシア王国)の祝福についての一面を、イザヤ書 11 章を通して学びました。その祝福とは「**普遍的平和**」が実現するということでした。神と人のかかわりにおいて、また人と人のかかわりにおいて、また人間と動物とのかかわりにおいて、また神の民と異邦人とのかかわりにおいて、また、神の民であるエフライム(北イスラエル)と南ユダとのかかわりにおいて、天と地におけるすべての領域において、神の平和(シャーローム רִפְאוּם)が回復するからです。今回は、メシア王国の時代に起こるさらなる一面、つまりキリストの再臨以降に、旧約聖書で預言されていた「**全イスラエルの最終的帰還の実現**」と「**新しい契約**」の成就について学びたいと思います。前回と同じテキストであるイザヤ書 11 章の後半を窓口にして、そのことを見てみたいと思います。

【新改訳 2017】イザヤ書 11 章 11~16 節

- 11 その日、主は再び御手を伸ばし、ご自分の民の残りの者を買取られる。彼らは、アッシリア、エジプト、パテロス、クシュ、エラム、シンアル、ハマテ、海の島々に残っている者たちである。
- 12 主は国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。13 エフライムのねたみは去り、ユダに敵する者は断ち切られる。エフライムはユダをねたまず、ユダもエフライムを敵としない。14 彼らは西の方、ペリシテ人の肩に飛びかかり、ともに東の子らからかすめ奪う。彼らはエドムとモアブにも手を伸ばし、アンモン人も彼らに従う。
- 15 【主】はエジプトの海の入江を干上がらせ、また、その焼けつく風の中で御手をその川に向かって振り動かし、それを打って七つの水無し川とし、履き物のままで歩けるようにする。16 残されている御民の残りの者のためにアッシリアから大路が備えられる。イスラエルがエジプトの地から上って来た日に、イスラエルのために備えられたように。

●このテキストで最初に注目したいことは、11 節にある「**その日**」という言葉です。これはキリストの再臨のことを意味しています。さらに 11 節の「**再び**」という言葉です。つまり、キリストの再臨の前に、「主は**再び**御手を伸ばし、ご自分の民の残りの者を**買い取られる**。・・・主は、国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を**取り集め**、ユダの追い散らされた者を地の四隅から**集められる**。」(11～12 節)ということが実現するという預言です。この箇所での「**再び**」とは、神のご計画における最終的成就として世界に離散した全イスラエルが**集められる(帰還する)**ことだと解釈します。「再び」というからには、すでに一度、帰還を経験しているわけですが、その帰還についてはさまざまな解釈があります。その中に、1948 年のイスラエル建国を意味しているという解釈もあります。

●どこに取り集められるのかといえば、それは「**イスラエルの地に**」です。1948 年にイスラエルが共和国として国家的建国を果たして以来、今日、多くのユダヤ人たちがイスラエルに帰還しています。しかし、彼らは**不信仰のままに帰還している**のです。1948 年以降に少しずつではありますが、ユダヤ人の中からイエシュアがメシアであることを信じるメシアニック・ジューと言われる人たちが出現するようになりました。その数はユダヤ人たちの中ではごく少数です。しかし、なぜ、神は神の民であるユダヤ人を世界各地から集めておられるのでしょうか。それは彼らをさばくためです。

●では、「さばくため」に彼らをイスラエルに帰還させているとはどういうことでしょうか。それは、イエシュアこそメシアであると信じなかった不信仰に対するさばきとして、やがて獣と呼ばれる反キリストによってもたらされる七年間の患難時代(特に後半の 3 年半の大患難時代)の試練を通して、イエシュアがメシアであることに彼らの目を開かせるためです。キリストの再臨の前に、彼らはイスラエルの地から再び「**離散**」を余儀なくされます。そのあたりのことをイエスはマタイの福音書 24 章 15～22 節で次のように話されました。

【新改訳 2017】マタイの福音書 24 章 15～22 節

15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす忌まわしいもの』が聖なる所に立っているのを見たら——読者はよく理解せよ——

16 ユダヤにいる人たちは山へ**逃げなさい**。

17 屋上にいる人は、家にある物を取り出そうとして下に降りてはいけません。

18 畑にいる人は上着を取りに戻ってはいけません。

19 それらの日、身重の女たちと乳飲み子を持つ女たちは哀れです。

20 あなたがたの逃げるのが冬や安息日にならないように祈りなさい。

21 そのときには、世の始まりから今に至るまでなかったような、また今後も決していないような、大きな苦難があるからです。

22 もしその日数が少なくされないなら、一人も救われないうでしょう。しかし、選ばれた者たちのために、その日数は少なくされます。(実際には、三年半です)

●彼らは、逃げのびた所で、預言者ゼカリヤが預言した「後の雨」と言われる「**恵みと嘆願の霊**」が注がれる経験をします。つまり、獣と呼ばれる反キリストによる大患難をくぐり抜けた三分の一のユダヤ人は、キリストの再臨の前に、聖霊の傾注によって、「自分たちが突き刺した者(イエシュア・メシア)」と主を仰ぎ見て、主

とメシアが一体であったことに霊の目が開かれます。メシアを拒絶したことがいかに大罪であったかを知り、尋常ではない「苦しみを伴ったひどい悲しみ」をもって激しく泣き、民族的な回心(新生)がもたらされます。と同時に、彼らは「主の御名によって来られる方に祝福あれ」と祈り、その後にキリストは地上再臨されます。

## 1. 「千年王国」の序曲としての全イスラエルの最終的な帰還

●今回は、キリストの地上再臨の前に、全イスラエルの民がイスラエルへ最終的に帰還することを取り上げますが、その祝福は「千年王国」における序曲にすぎません。

### (1) 全イスラエルの最終的帰還の預言(イザヤ書 11 章 11~16 節を一例として)

#### ① 中近東の諸国からの帰還(11 節後半)

「彼らは、アッシリア、エジプト・・・に残っている者たち」です。

ここに上げられている国々は中近東諸国です。そこから、信仰をもったイスラエルの民が帰還します。

#### ② 世界の果てからの帰還(12 節)

「主は国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。」

#### ③ イスラエル(エフライム)とユダとの間にあった敵意と妬みは消える(13~14 節)。

#### ④ 最終的な帰還には神の奇蹟が伴う(15~16 節) – 出エジプトの時と似た紅海徒渉のような奇蹟一。

15 【主】はエジプトの海の入江を干上がらせ、また、その焼けつく風の中で御手をその川に向かって振り動かし、それを打って七つの水無し川とし、履き物のままで歩けるようにする。

16 残されている御民の残りの者のためにアッシリアから大路が備えられる。イスラエルがエジプトの地から上って来た日に、イスラエルのために備えられたように。

●このようにして、「主は再び御手を伸ばし、ご自分の民の残りの者を**買い取られる**。・・・主は国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を**取り集め**、ユダの追い散らされた者を地の四隅から**集められる**。」(11~12 節)ということが実現するのです。旧約の預言は霊的・比喩的にではなく、字義どおりに解釈されなければなりません。

●ちなみにイザヤ書 12 章では、全イスラエルの最終的な帰還が成就した「**その日**」には、出エジプトの時のように、神への賛美がなされます。少し覗いてみましょう。

【新改訳 2017】イザヤ書 12 章 1~3 節

1 その日、あなたは言う。「【主】よ、感謝します。あなたは私に怒られたのに、あなたの怒りは去り、私を慰めてくださったからです。」

2 見よ、神は私の救い。私は信頼して恐れない。ヤハ、【主】は私の力、私のほめ歌。私のために救いとなられた。

3 あなたがたは喜びながら水を汲む。救いの泉から。

●ここにも「**その日**」とあります。キリストの地上再臨によって、全イスラエルが最終的に帰還した後に歌われる歌の内容が1節です。3節には「あなたがたは喜びながら水を汲む。救いの泉から。」とあります。これが有名な「マイム・マイム」の歌です。水を汲むという部分が省略された形で、「マイム、マイム、マイム、マイム、**マイム・ベッサツソン**」と歌いますが、太字の部分は「喜びながら水を」という意味です。ここは人称なき存在(聖霊)が語っていることばと言えます。「その日」には爆発的な喜びの賛美がわき起こることが、旧約聖書の数多くの箇所を預言されています。3節の「救いの泉から」とは、最終的に約束の地に帰還した神の民のために神が備えられた祝福が無尽蔵で、豊かに備えられていることを意味しています。

## (2) 全イスラエルの最終的帰還は神の創造のみわざである

【新改訳 2017】イザヤ 43 章 5~7 節

5 恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。**わたしは東からあなたの子孫を来させ、西からあなたを集める。**

6 北に向かつては『引き渡せ』と言ひ、南に向かつては『引き止めるな』と言う。わたしの息子たちを遠くから来させ、娘たちを地の果てから来させよ。

7 わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを**創造した**。これを**形造り**、また、これを**造った**。

●この箇所も、全イスラエルに対する最終的な帰還の呼びかけがなされています。東から、西から、北から、そして南から、世界中からの帰還が強調されています。7節にある、以下の三つの動詞に注目しましょう。

- ① 「**創造した**」 — 「バーラー」 (בָּרָא) 創世記 1:1, 21, 27, 27, 27/2:4(この動詞は神にしか使われません)
- ② 「**形造った**」 — 「ヤーツアル」 (יָצַר) 創世記 2:7, 8, 19
- ③ 「**造った**」 — 「アーサー」 (אָסַר) 創世記 1:7, 11, 12, 16, 25, 26, 31/2:2, 2, 3, 4, 18

●これらは、創世記 1~2 章に出て来る動詞です。神が天と地を創造された時の動詞がそのまま使われているのです。ということは、全イスラエルの最終的な帰還の出来事は、神の主権的な創造のみわざとしてなされることを強調しているのです。**全イスラエルの最終的な帰還は、イスラエルの全歴史のクライマックス**なのです。しかも、その出来事はキリストの再臨の前後に起こるということです。こうした預言は、旧約聖書の中に数限りなく語られているのです。千年王国がメシア王国の実現であるという信仰がなければ、旧約聖書の預言は正しく理解できません。置換神学によって、今日、この神のご計画の事実完全に目が塞がれています。

## (3) 全イスラエルの最終的な帰還は「地の果てから」と「天の果てから」帰還する

●ところで、全イスラエルの最終的な帰還は「ラッパの響き」とともに始まります。「人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。」(新改訳 2017、マタイ 24:31)。また、並行記事であるマルコの福音書 13 章 27 節では「そのとき、人の子は御使いたちを遣わし、地の果てから天の果てまで、選ばれた者たちを四方から集めます。」とあります。これらのマタイ、マルコの箇所の背景には、以下のように、申命記 30 章 3~4 節があります。

【新改訳 2017】申命記 30 章 3～4 節

- 3 あなたの神、【主】はあなたを元どおりにし、あなたをあわれみ、あなたの神、【主】があなたを散らした先の、あらゆる民の中から、再びあなたを**集められる**。
- 4 たとえ、あなたが天の果てに追いやられていても、あなたの神、【主】はそこからあなたを**集め**、そこからあなたを**連れ戻される**。

●最終的に、主がご自身の民を帰還させる場合、二つのパターンがあります(これはアーノルド・フルクテンバウム博士の見解です)。

- ①「**地の果てから帰還する**」のは、信仰をもって反キリストの大患難をくぐり抜けたイスラエル人たち。
- ②「**天の果てから帰還する**」のは、すでに信仰をもって死に、その死から復活したイスラエル人たち。

●ちなみに、イスラエルに最終的に帰還したイスラエル人は、千年王国においては、さらに増え広がり(エレミヤ 23:3)異邦人とのかわりにおいては支配的な位置に着きます(申命記 15:6/28:1 等を参照)。イスラエルの帰還に際して、異邦人がそれをサポートすることも預言されています(イザヤ 14 章 1～2 節。特に 2 節を参照)。

## 2. 千年王国における「新しい契約」の実現

●千年王国の序曲として、全イスラエルの最終的な帰還が実現します。これは神の主権的、創造的なみわざです。私たちにはなかなか理解できない、想像し得ない不可思議な出来事です。しかし、神はご自身の約束を成就されます。と同時に、神が彼らに約束された「**新しい契約**」も成就されます。ここでいう「新しい契約」とはエレミヤが預言したものです。この契約は千年王国において完全に実現するのです。

【新改訳 2017】エレミヤ書 31 章 31～34 節

- 31 **見よ、その時代が来る**——【主】のことば——。そのとき、わたしはイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ。
- 32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を取って、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破った——【主】のことば——。
- 33 これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである——【主】のことば——。わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。
- 34 彼らはもはや、それぞれ隣人に、あるいはそれぞれ兄弟に、『【主】を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るようになるからだ——【主】のことば——。わたしが彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」

### (1) 新しい契約の特徴としての「内面性」

●33 節に「わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。」とあります。それは外からの義務や強制によるものではなく、内側からの意志(自発性、主体性、自立性)によって、神の律法(トーラー/みおしえ)を守り、従おうとすることです。この内面的な意志によって、「わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」ということが可能となるのです。

### (2) 新しい契約の特徴としての「個人性」

●34 節に「彼らはもはや、それぞれ隣人に、あるいはそれぞれ兄弟に、『【主】を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るようになるからだ」とあります。身分の上下や貧富などによって差別されることなく、一人ひとりが平等に、しかも、直接的に主と向き合うようになるからです。

### (3) 新しい契約の特徴としての「完全な赦罪(しゃざい)」

●34 節の後半には「わたしが彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」とあります。完全な赦罪(しゃざい)があるということです。これは本来、契約関係においては絶対にあり得ないことなのです。つまり、ペナルティなしの契約というものはありません。千年王国にもイエシュアが山上の説教で教えられたような「御国の律法」があります。その律法は良いものであり、正しいものですが、問題はそれを守り切れないという人間側の矛盾性にあります。使徒パウロはそのことで悩みました。ローマ書 7 章にはこの矛盾と葛藤の悩みが記されています。「新しい契約」においては、エレミヤはその方向性だけを指し示しています。その契約を成立させる仲介者もその方法についても不透明ですが、新約に生きる私たちには「新しい契約」がイエシュアの血潮によって締結されたことをすでに知っています。しかし、イスラエルの家とユダの家とに対して、「新しい契約」が完全に締結するのはこれからのことです。しかし、「見よ。そのような日々が(必ず)来る」のです。



●同様の内容が、エゼキエル書 11 章 19~20 節にも預言されています。

【新改訳 2017】エゼキエル書 11 章 19~20 節

19 わたしは彼らに一つの心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしは彼らのからだから石の心を取り除き、彼らに肉の心を与える。

20 こうして、彼らはわたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行ふ。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。

●「新しい霊を与えられた一つの心」、それは「石の心」に代わる「肉の心」で、主に対する柔らかかな心、主を愛する従順な心意味します。しかしその心は神の創造によってのみ造られます。この約束は実に重要で、



エゼキエル書 36 章 24～27 節でも再度ふれています。

【新改訳 2017】エゼキエル書 36 章 24～27 節

24 わたしはあなたがたを諸国の間から導き出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。

25 わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよくなる。

わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、

26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。

27 わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。

●ここでも、主は、再び、主の名を汚されることのないように特別な恩寵を与えます。それが「**新しい心と新しい霊を与える**」という約束です。それは同義的な表現として、彼らの「石の心(頑なな心)を取り除き」、彼らに「肉の心(柔らかな心)を与える」と言い換えられています。このことによって、イスラエルの全家は主のおきてに従って歩み、主の定めを守り行うことが実現するのです。すべては神によってなされるのです。

## ベアハリート

●イスラエルの全家の内的・霊的回復はまさに御父の不変のご計画です。心躍る驚くべき神のみわざです。そして現代、それがどのように進んでいるかに目を配ることは重要なことです。それは異邦人のキリスト者においても密接なかかわりがあるからです。特に、ヘブル語の奇蹟的な復興によって、ユダヤ的・ヘブル的視点からの聖書の解釈の見直しがなされています。これは次世代の課題と言えますが、すでにその影響を多分に受ける時代を迎えています。

●キリスト教会においてユダヤ的・ヘブル的ルーツが断ち切られた「置換神学」と、18, 19 世紀の伝道至上主義によって強調されてきた「個人的な救い」のために、初代教会が伝えた「福音理解」、また「神の国」についての理解はかなりゆがめられたものとなってしまいました。いや、そのことさえ気づかずにいるクリスチャンが多いのです。しかし「終わりの日」が近づくにつれて、主はユダヤ人のみならず、異邦人の上にも「新しい心と新しい霊」を注いで、本来のあるべきところへと私たちを導こうとしておられると信じます。

●私たちがメシア・イエシュアによって完結するイスラエルの物語を、また預言者を通して語られた神の約束をあるがままに理解するならば、これまで覆い隠されていたイエシュアの語ったことばがより深く理解でき、これまでの理解の型紙に当てはまらない真理を、驚きをもって悟るようになって信じます。このことは、これからの時代において、ますます速度を増しながら起こってくるものと信じます。それゆえ、ウキウキ・ドキドキ・ワクワクしながら、日々みことばが開かれて「主の御顔を仰ぎ見る」喜びを、さらに求めて歩みたいと思えます。